



こども・若者の居場所づくり基本方針の策定に向けて

令和 5 年度第 3 回柏市社会教育委員会議 説明資料

1 こども・若者を取り巻く環境①



(1) 人口

10歳～14歳 19,214人
15歳～19歳 19,001人
合 計 38,215人(R4.9 住民登録者)

(2) 人口推計

	2025	2030	2035	2040	2045	2050	2055	2060	2065	2070
10～14歳	18,941	18,782	18,082	17,886	17,767	17,162	16,452	15,502	14,538	13,626
15～19歳	19,128	19,366	19,098	18,311	18,128	18,032	17,436	16,723	15,764	14,783
合計	38,069	38,148	37,180	36,197	35,895	35,194	33,888	32,225	30,302	28,409

2030年をピーク
に減少

図1

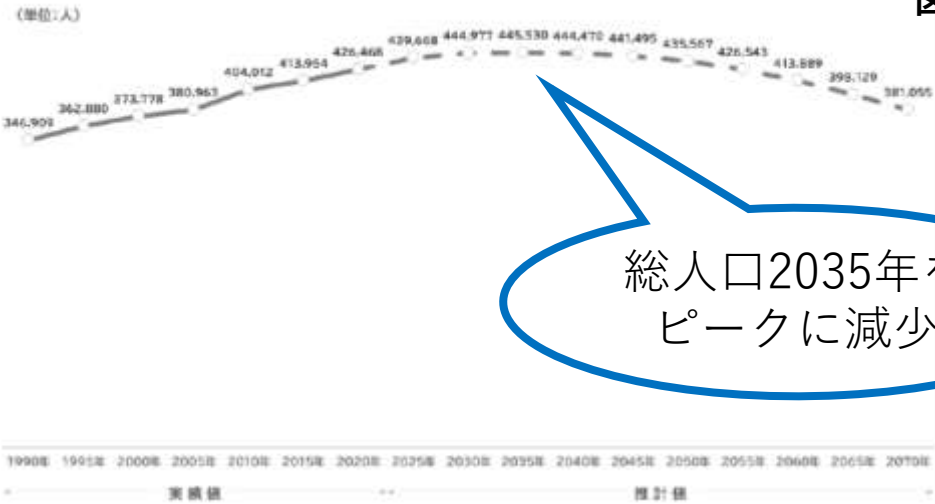
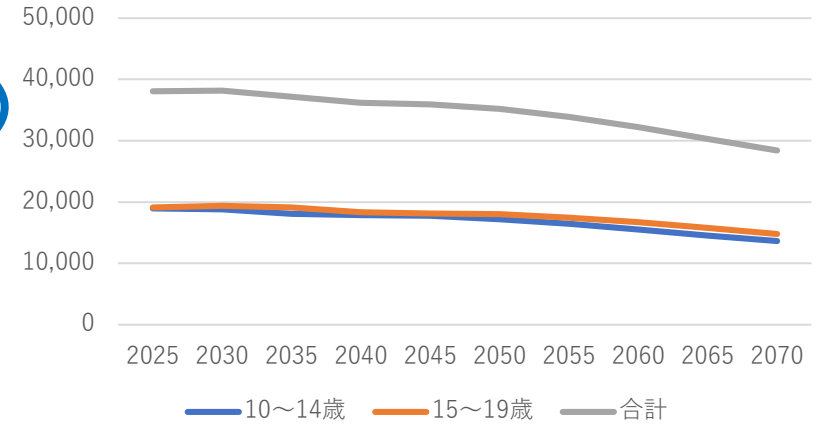


図2

総人口2035年を
ピークに減少

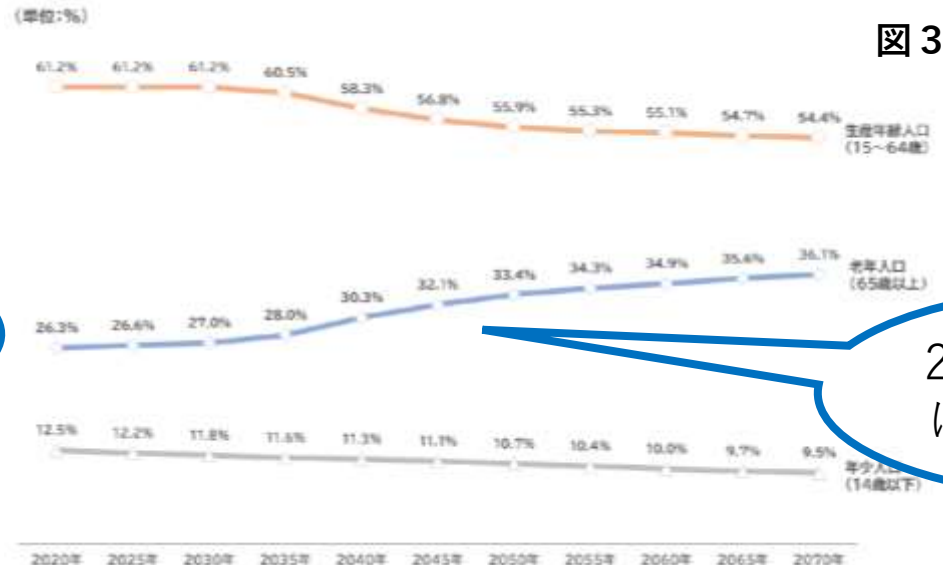


図3

2045年には約3人
に1人が65歳以上

1 こども・若者を取り巻く環境②



(1)不登校児童の増加（人）※H30～R4での比較

- ・小学生で3.1倍，中学生で1.8倍
- ・学校へ通えない子の支援形態が多様化（フリースクール，ICT）

【不登校等児童生徒者数（人）】

図1

	R4年度		R3年度		R2年度		R元年度		H30年度	
	長欠	不登校	長欠	不登校	長欠	不登校	長欠	不登校	長欠	不登校
小学生	460	314	356	233	284	177	296	124	269	101
中学生	678	492	552	373	463	322	455	275	485	278

※不登校の人数は，長欠の内数

参考：柏市における中学生の不登校生徒数 492人，不登校率約4.7%

【教育支援センター利用者数（人）】

図2

	R4年度	R3年度	R2年度	R元年度	H30年度
教育支援センター	137	109	100	87	81

【データ】

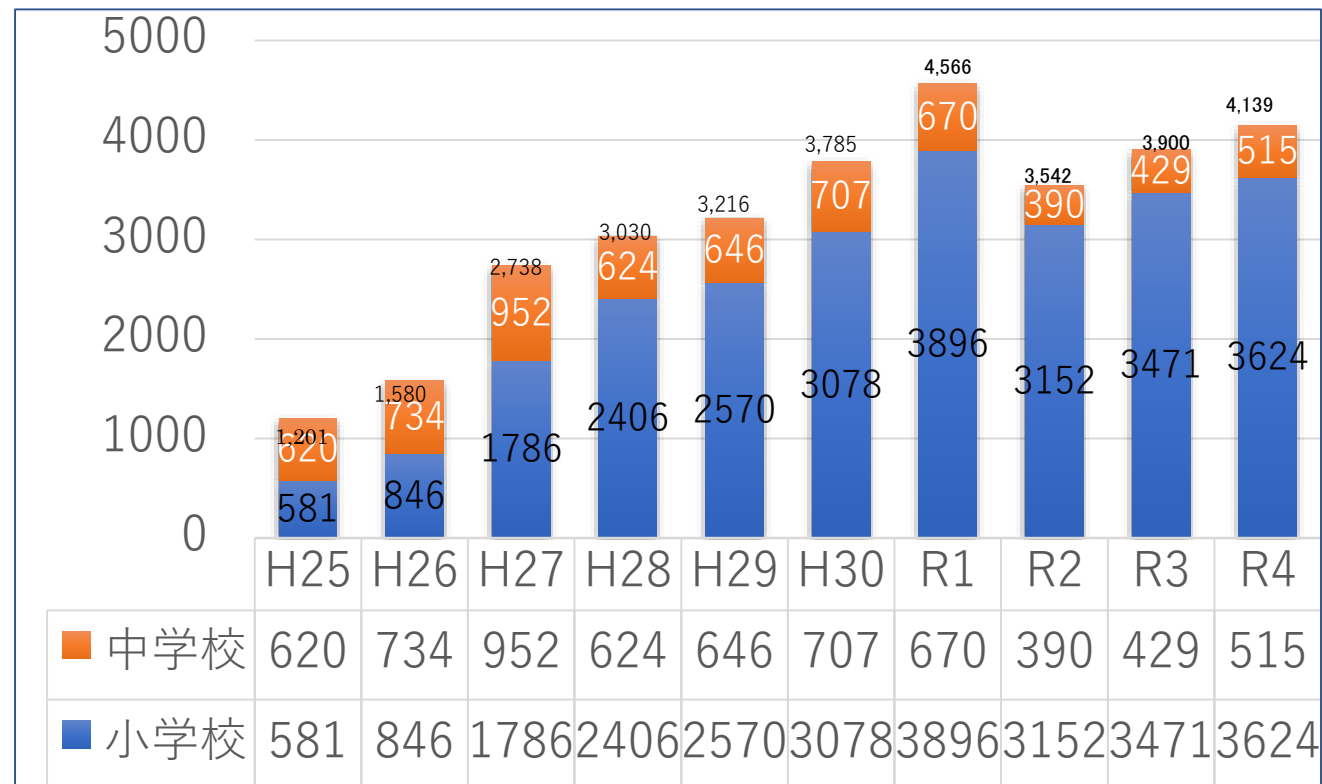
- ・市内フリースクール設置数
8校（R4年度末）
- ・（小学生）**17名**（中学生）**26名**が通級

1 こども・若者を取り巻く環境③



(2) いじめの認知件数

図1



・全体的に上昇傾向

・H27年度から認知件数が増加している理由

⇒H25年に「いじめ防止対策推進法」が施行。広く認知し早期対応が可能となった

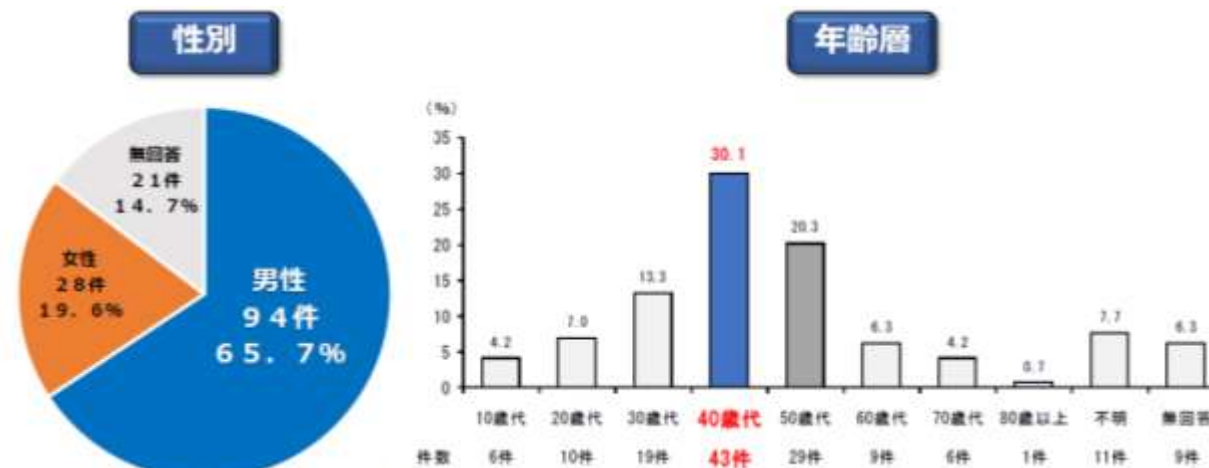
・令和2年度に減少した理由

⇒新型コロナウイルスのため、3カ月間休校となったことやソーシャルディスタンス等の対策のため

※児童生徒課調べ

(3) ひきもりの状況

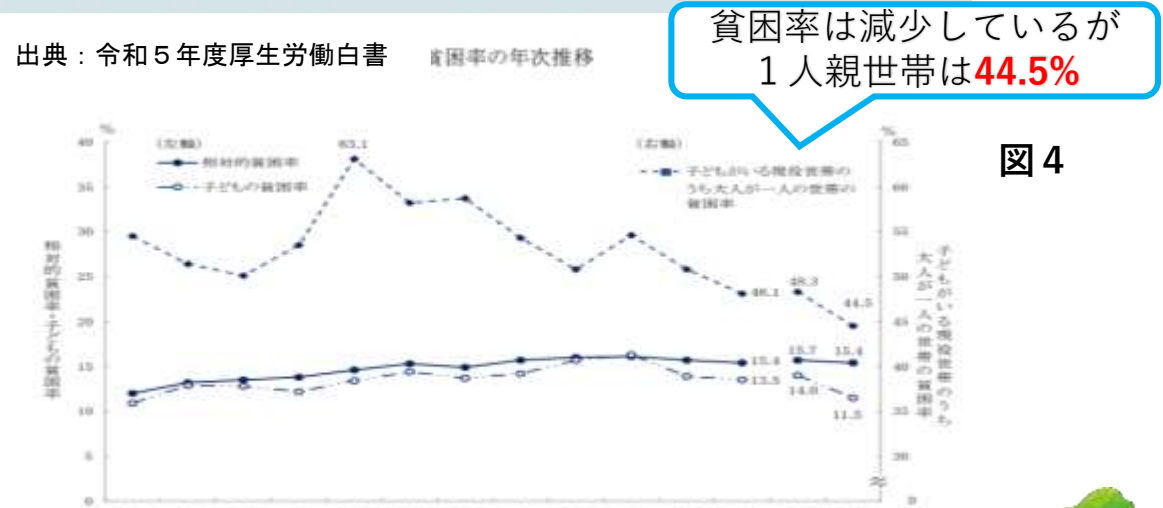
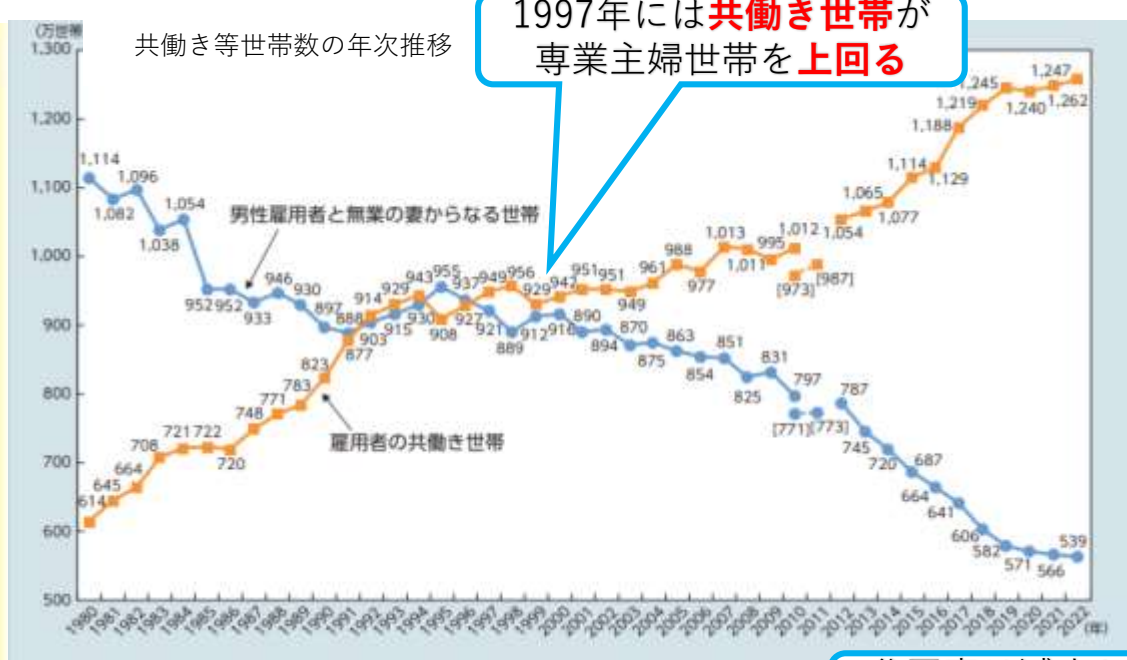
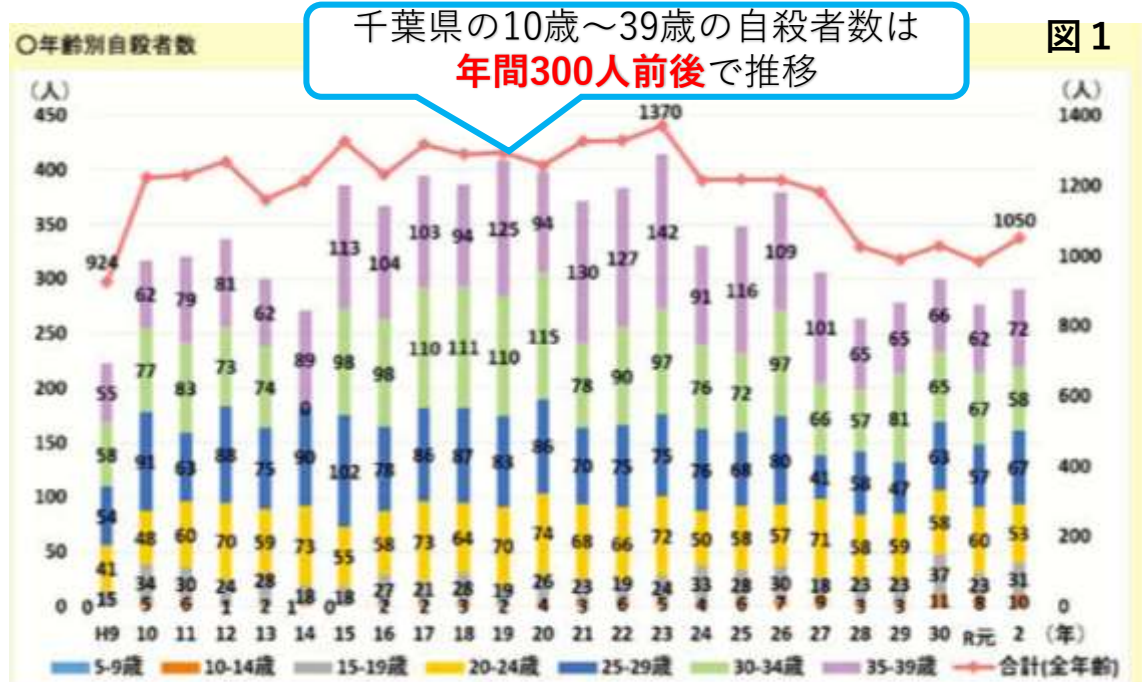
図2



40代が全体の約30%を占めているが、10代・20代も約11%を占めている

※R4年度柏市ひきこもり支援調査より
※民生委員が把握している状況を調査

1 こども・若者を取り巻く環境④



出典：第4次千葉県青少年総合プラン



出典：令和4年国民生活基礎調査

2 居場所の必要性

- (1) 居場所が多いほど自己肯定感・有用感が高い(図1)
- (2) 日本のこども・若者は精神的幸福度が低い(図2)
- (3) 安心できる居場所として地域の機能が低下(図3)
- (4) 部活動の地域移行で土日の行き場が不足

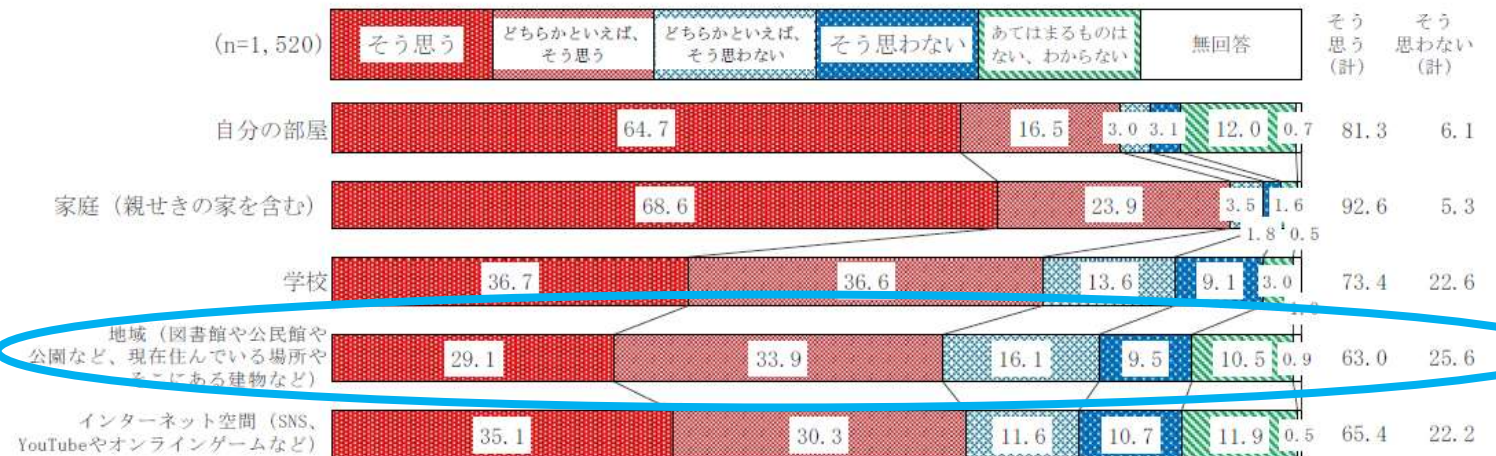
自己肯定感・自己有用感を高め、多世代との交流や地域とのつながりを持ち、ウェルビーイングでの成長につなげる

図2

出典：ユニセフ/国際調査では精神的幸福度が38か国中37位



図3



出典：こども・若者の意識と生活に関する調査(R5.3 内閣府)

3 柏市の取り組み①



(1) 児童センターでの中高生の居場所事業 (H17～)

- ①しこだ児童センターで実施 (R4利用状況 計22人)
- ②豊四季台児童センターで実施 (R4利用状況 計222人)

(2) かしわ地域若者サポートステーション (H21～)

- ①15歳から49歳までを対象に就労支援を実施 (R4新規登録者176人, 就労決定者65人)

(3) 学習支援事業

- ①小中学生コース (小学4年生～中学2年生, 計85人利用)
 - 内容: 生活習慣, 意欲, コミュニケーション能力等基礎的能力の向上を図る学習の土台づくりを中心に支援
- ②中高生等コース (中学3年生～高校3年生, 計178人利用)
 - 内容: 「小中学生コース」での土台を生かした学力向上を中心に支援
- ③対象は, 生活保護, 児童扶養手当, 就学援助, ひとり親家庭等医療費等女性, 遺児等養育手当のいずれかを受給する世帯の児童・生徒

(4) 学習スペース事業

- ①パレット柏 (座席数84席 ※平日夕方, 休日は満席。高校生の利用が目立つ。)
- ②ラコルタ柏 (R5利用登録者数 1,215人 ※R4平均利用人数(実績): 平日は16人, 土日等は25人)

・近隣センターにおける学習スペースのモデル事業も実施予定

・子ども・子育て支援複合施設

旧そごう柏店アネックス館にて, 子どもが成長に合わせて利用できる子ども・子育て施設を3月にオープン予定。

この5階に「**中高生世代の居場所**」を整備 (令和6年中の開所を予定)

・(仮称) 子ども・若者総合支援センター

旧青少年センターを建て替え, 児童相談所や青少年センター機能を包含した複合施設を整備 (令和8年度開所予定)

同施設にも「**中高生世代の居場所**」を予定



3 柏市の取り組み②



(5) 放課後子ども教室

①平日における補充学習（H19～）

➤小学校2～3年生を中心に週1回程度、令和元年度に全校実施（現在、平日開催は40/42校）

②居場所型への移行準備として、夏休み期間及び平日放課後に地域連携でのモデル事業を数校で実施（R4～）

ゆるやかな見守りのなかで、こどもたちが自由に過ごすことのできる『放課後子ども教室（居場所型）』を今後数年かけて全校で実施

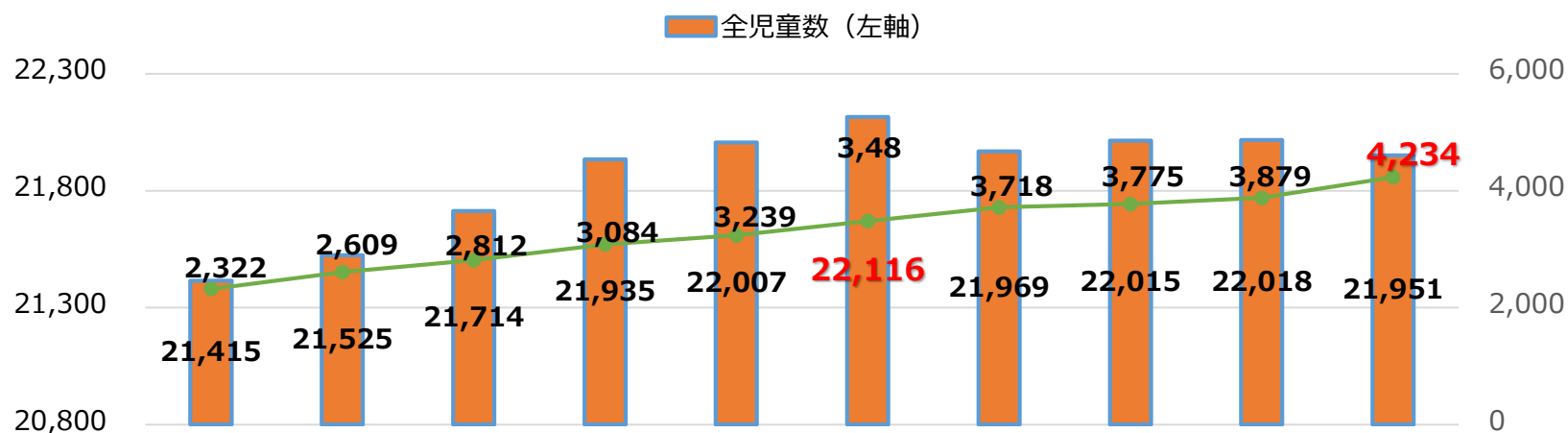
③夏休み子ども教室

➤民間団体や高校等と連携して体験講座を実施（R5 58講座955人受講）

(6) こどもルーム

保護者が共に働いているなどの理由で、帰宅しても保育する人がいない小学1年生から6年生までの児童をお預かりし、児童の健全な育成を図るための施設

市内の児童数は横ばいだが、
こどもルームの利用率は増加傾向



	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
利用率	10.8%	12.1%	13.0%	14.1%	14.7%	15.7%	16.9%	17.1%	17.6%	19.3%
入所 保留者数	35	24	61	57	52	36	23	22	40	40

4 今後のスケジュール（予定）



	内容	12月	R6 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R7 1月	2月	3月
1	柏市社会教育委員会議			●(3回)						○(1回)		○(2回)		○(3回)			○(4回)
2	(仮称)こども・若者の居場所 づくりアンケート調査			調査票作成	←→	発送・集計	←→	集計・分析									
3	パブリックコメント														募集	←→	
4	こども・若者の場所づくり基本方針 の策定																●策定
5	子ども・子育て支援複合施設にお ける中高生世代の居場所														●開設	→	
6	放課後子ども教室（居場所型） モデル校			モデル校決定	●	←→	実施準備	→			●開始	→					

社会教育委員会議のスケジュール（予定）

令和6年度	開催予定月	諮問に係る議題等（予定）
第1回	令和6年7月頃	(仮称)こども・若者の居場所づくりアンケート調査結果等
第2回	9月頃	答申案の骨子の検討
第3回	12月頃	答申案の検討
第4回	令和7年2月頃	答申

5 さいごに



- ・居場所がないことは孤独・孤立の問題と深く関係しており，生きていく上で**居場所は不可欠**
- ・居場所をふやし，居場所につなぎ，様々な体験や多くの交流を行うことで**健やかに幸せ**に成長し，社会での**活躍**を目指す
- ・このため，**小学生，中高生世代の若者を含む**柏市のこども・若者の居場所づくりの道しるべとなる**基本方針**の策定に取り組む
- ・本日は，そのためのスタート
次のテーマに関するご意見・ご提案等をいただけますよう。よろしくお願いします。

○本日のテーマ

「**柏市に必要な居場所と，提供できそうな取り組みについて**」

- 1 柏市の小学生，中高生は，どのような居場所を必要としているのか
- 2 上記1の居場所の実現に向けて，提供できそうな取り組みはあるか（官民連携による可能性等）